

「実務経験のある教員等による授業科目」一覧表

<保育科>

授業科目名	単位数	教員名	実務経験を活かして行う授業
社会的養護 I	2	杉山 宗尚	児童養護施設における現場職員としての経験を活かし、受講者のほとんどが関わったことのない社会的養護の制度、施設等について、具体的にどのような子どもたちが措置、利用しているのかについて、また子どもたちへの支援の実際について、教授していく。
保育内容指導法（人間関係）	1	山中 早苗	保育士としての経験を活かし、乳児期から幼児期にかけての人間関係の発達と必要となる援助について、具体的な子供の姿をもとに説明する。
保育内容指導法演習 B	1	森田 麗子	保育者としての経験を活かし、子どもの姿をもとに、子どもの年齢、発達に応じた具体的な保育方法や子どもとの関わり方についての指導を行う。
保育内容指導法（言葉）	1	厨子 直子	幼稚園現場の教員経験を生かし、幼児の言葉の発達や保育者の役割や援助を具体的に指導する。
子ども理解と相談援助	2	渡邊恵梨佳	心療内科や児童養護施設で心理士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして子どもの成長、発達の捉え方や保護者からの相談に対応するためのカウンセリング技術について具体的な例を踏まえて講義する。
合計単位数	7 単位		

<専攻科>

授業科目名	単位数	教員名	実務経験を活かして行う授業
キリスト教保育特論	2	森田 喜基	キリスト教団の運営に関わり、小学校、中学校、高等学校における宗教科教諭としてキリスト教教育に携わってきた経験から、現代の幼児教育、保育の現状において、子どもの生活を視野に入れて、キリスト教保育を行うことへの専門的、実践的な視座と意義を教授する。
子育て支援論	2	山中 早苗	保育士としての勤務経験を活かし、子育て支援において保育者がもつべき姿勢や果たす役割について指導を行う。また、他機関との連携の重要性についても解説する。
保育心理学	2	渡邊恵梨佳	心理ケアの臨床現場経験を活かして、子どもの理解や(保護者理解も含めて)心理学的視点を用いた人との関り等について、専門的・実践的な知識や技術を教授する。
子ども家庭福祉論	2	杉山 宗尚	児童養護施設の現場職員としての経験を活かし、社会的養護を含む子ども家庭福祉分野に関連する内容について、学生の理解を深められるように説明し、教授する。特に、学生による発表・討議の場では、学生にとって理解が難しい内容や疑問・質問に対する解説をわかりやすく行う。
合計単位数	8 単位		

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名																				
H1203	社会的養護 I	講義	2	1年次前期	選択	保育士資格必修	杉山 宗尚 (実務経験のある教員)																				
<p>【実務経験】 児童養護施設における現場職員としての経験を活かし、受講者のほとんどが関わったことがない社会的養護の制度、施設や里親等について、具体的にどのような子どもたちが措置され、利用しているのかについて、また子どもたちへの支援の実際について、教授していく。</p>																											
<p>【授業の概要】 家庭において養育されることが難しい子どもたちを社会の役割として養護しなければならない。それが社会的養護である。この授業では、現代社会における社会的養護の意義や歴史の変遷、体系、子どもの権利擁護等について説明する。また、施設養護や家庭養護の特質や基本原理、支援の実際について教授し、理解を深められるようにしていく。さらに、この授業での学びが後期の保育実習 I b (施設) で活かせるようになり、施設保育士や保育所保育士を目指す上で必要な社会的養護の現状の把握へとつながるように授業を進めていく。</p>																											
<p>【キーワード】 施設養護、家庭養護</p>																											
<p>【授業の到達目標 (目的・ねらい)】 ①社会的養護の意義や歴史の変遷、子どもの権利擁護について理解できる。DP(2) ②社会的養護の制度や仕組み、施設・機関や専門職等について理解できる。DP(2) ③社会的養護の現状を理解し、保育者として必要な福祉的視点を身につける。DP(1)</p>																											
<p>【成績評価の方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>80%</td> <td>各回の授業内容についての知識を問う問題で評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>20%</td> <td>提出状況と課題テーマに対する記述内容で評価する。</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	割合	評価基準	定期試験	80%	各回の授業内容についての知識を問う問題で評価する。	レポート	20%	提出状況と課題テーマに対する記述内容で評価する。	小テスト			その他			合計	100%			
評価項目	割合	評価基準																									
定期試験	80%	各回の授業内容についての知識を問う問題で評価する。																									
レポート	20%	提出状況と課題テーマに対する記述内容で評価する。																									
小テスト																											
その他																											
合計	100%																										
<p>【授業計画・内容・方法】</p>																											
第1週 オリエンテーション、子どもの育ちについて																											
第2週 社会的養護とは何か																											
第3週 子どもの権利																											
第4週 社会的養護に関わる法制度																											
第5週 社会的養護に関わる機関																											
第6週 施設養護①児童養護施設																											
第7週 施設養護②乳児院、児童自立支援施設																											
第8週 施設養護③母子生活支援施設、児童心理治療施設、障害児施設																											
第9週 社会的養護の歴史																											
第10週 施設養護における支援																											
第11週 治療的支援の実際																											
第12週 家庭養護①里親制度、ファミリーホームの概要																											
第13週 家庭養護②支援の実際																											
第14週 被措置児童等虐待の防止																											
第15週 施設の運営管理、全体の振り返り																											
<p>【事前・事後学習 (内容・時間)】 ★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 ・毎回の授業内容について、テキストや配布資料、ノート、参考文献の該当部分を読んで予習 (30分程度)・復習 (60分程度) をしておくこと。 ・授業のことでわからないことがあれば、担当教員へ尋ねてくること。</p>																											
<p>【授業計画コメント】 ・授業内容によって配布プリントをもとに授業を実施する。 ・遠隔で授業を実施する場合は、Phollyを活用する。また、Phollyでレポートの提出を求める場合がある。</p>																											
<p>【テキスト、参考書・参考資料等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>著者・編集者名</th> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>発行年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト</td> <td>原田句哉・杉山宗尚編著</td> <td>『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』</td> <td>萌文書林</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考書等</td> <td>有川浩</td> <td>『明日の子供たち』</td> <td>幻冬舎</td> <td>2014年</td> </tr> <tr> <td>参考書等</td> <td>黒川祥子</td> <td>『誕生日を知らない女の子』</td> <td>集英社</td> <td>2013年</td> </tr> </tbody> </table>									著者・編集者名	書名	出版社	発行年	テキスト	原田句哉・杉山宗尚編著	『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』	萌文書林		参考書等	有川浩	『明日の子供たち』	幻冬舎	2014年	参考書等	黒川祥子	『誕生日を知らない女の子』	集英社	2013年
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年																							
テキスト	原田句哉・杉山宗尚編著	『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』	萌文書林																								
参考書等	有川浩	『明日の子供たち』	幻冬舎	2014年																							
参考書等	黒川祥子	『誕生日を知らない女の子』	集英社	2013年																							
<p>【オフィスアワー】 火曜日昼休み、杉山研究室</p>																											
<p>【その他】 この科目は保育実習 I b (施設) にとって重要な科目である。しっかりと施設のこを含めた社会的養護について学んでもらいたい。レポートに関するフィードバックは、授業内で全体的に行う。</p>																											

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名
H1211	保育内容指導法（言葉）	演習	1	1年次前期	必修	幼二種免必修 保育士資格必修	厨子 直子 （実務経験のある教員）
【実務経験】 幼稚園現場の教員経験を生かし、幼児の言葉の発達や保育者の役割や援助を具体的に指導する。							
【授業の概要】 子どもの言葉の発達は乳幼児期の生活や遊びと深く関連している。言葉のもつ意義や機能、乳幼児期の言葉の発達の道すじについて学び、実践事例や映像資料を通して子どもが生活や遊びにおいて体験している内容を捉え理解する。また、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを味わうために必要な保育内容の指導法や児童文化財に関する知識・技術などについて実践的に理解を深める。							
【キーワード】 領域「言葉」、言葉の発達、豊かな言葉、児童文化財							
【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。DP(2) ②乳幼児の言葉が育つ道筋を理解し、保育者の援助を考えることができる。DP(2) ③言葉を豊かにする遊びや児童文化財の意義を理解し実践力を身につける。DP(2)(3)							
【成績評価の方法・基準】							
定期試験		50%	授業内容を理解した上で設問に対して的確に回答しているかを評価する。				
小レポート		20%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する。				
小テスト		10%	基礎的な事項についての確に回答しているかを評価する。				
その他	授業への取り組み	20%	話し合いや実践の取り組み状況により評価する。				
合計		100%					
【授業計画・内容・方法】							
第1週 オリエンテーション 子どもの言葉の育ち							
第2週 幼稚園教育要領等における領域「言葉」のねらいと内容							
第3週 乳幼児の言葉の発達①乳児期							
第4週 乳幼児の言葉の発達②幼児期前期							
第5週 乳幼児の言葉の発達③幼児期後期							
第6週 言葉を育む保育環境と援助 ―信頼と受容―							
第7週 言葉を育む保育環境と援助 ―人とつながる言葉―							
第8週 言葉に対する感覚を豊かにする実践① ―わらべうた・手遊び― <グループワーク>							
第9週 言葉に対する感覚を豊かにする実践② ―素話・言葉遊び― <グループワーク>							
第10週 保育教材としての児童文化財の活用① ―絵本や紙芝居から広がる世界―							
第11週 保育教材としての児童文化財の活用② ―絵本の読み聞かせ―							
第12週 保育教材としての児童文化財の活用③ ―ごっこ遊びから劇遊びへ―							
第13週 保育教材としての児童文化財の活用④ ―パネルシアター― <グループワーク>							
第14週 言葉による伝え合い ―事例や映像資料から考える―							
第15週 振り返りと言葉の指導の今日的課題							
【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 授業内容の理解を深めるため毎回45分程度の自己学習が必要とされる。 前回の授業での課題を通して復習し、次回の授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。							
【授業計画コメント】 遠隔で行う際、Phollyを用いる場合がある。また、Phollyへの授業内レポートの提出を求めることがある。							
【テキスト、参考書・参考資料等】							
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年			
テキスト	岸井勇雄 無藤隆 湯川秀樹監修 太田光洋編著	【保育内容・言葉】	同文書院	2018年			
参考書等	文部科学省	【幼稚園教育要領解説】	フレーベル館	2018年			
参考書等	厚生労働省	【保育所保育指針解説】	フレーベル館	2018年			
参考書等	内閣府他	【幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説】	フレーベル館	2018年			
【オフィスアワー】 水曜日の昼休み 場所は厨子研究室							
【その他】 提出された課題については、授業内で全体に向けてフィードバックを行う。							

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名
H1209	保育内容指導法（人間関係）	演習	1	1年次前期	必修	幼二種免必修 保育士資格必修	山中 早苗 (実務経験のある教員)
【実務経験】保育士としての経験を活かし、乳児期から幼児期にかけての人間関係の発達と必要となる援助について、具体的な子供の姿をもとに説明する。							
【授業の概要】 領域「人間関係」に示されたねらいと内容をふまえ、乳幼児期に人とかかわる力を育むための保育者の役割と援助のあり方を考える。授業は講義に加え、教科書の事例や映像をもとに子どもの視点から人とかかわる力の発達を読みとり、子どもの自立性や社会性を育むうえでどのような援助や保育を行えばよいかを考える。それぞれの考えをペアやグループで共有するなかで多様な見方に触れ、子どもの発達にふさわしい援助や保育を実践する方法について考察を深める。							
【キーワード】 乳幼児、人間関係、発達過程、援助							
【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。DP(2) ②乳幼児が人とかかわる力を形成する過程を理解する。DP(2) ③人とかかわる力を育てる援助や指導を考え、説明することができる。DP(2)(3)							
【成績評価の方法・基準】							
定期試験	70%	講義内容の基礎的事項と応用問題で評価する。					
レポート	30%	小テストおよび課題。授業内容の理解度を測るためのものであり、主に到達目標①②について知識の定着度を確認する。					
小テスト							
その他							
合計	100%						
【授業計画・内容・方法】							
第1週 現代社会と子どもを取り巻く人間関係—家庭・地域での人間関係と保育に求められる役割—〈対話・議論型授業〉							
第2週 領域「人間関係」におけるねらいと内容—保育の基本と領域「人間関係」のめざすもの〈グループワーク〉							
第3週 身近な人とかかわりと人間関係の発達—愛着と基本的信頼を生む大人とかかわり—							
第4週 人間関係の広がりや自我の芽生えを支える援助							
第5週 生活と遊びの中で育まれる人とかかわる力							
第6週 自立心の育ちと自己発揮を支える環境構成と援助							
第7週 遊びのなかでの葛藤と自己調整力の育ち〈グループワーク〉							
第8週 幼児期の協同性の育ち—共通の目的に向かって協力しあう力を育てる保育の展開—〈対話・議論型授業〉							
第9週 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係—乳児期・幼児期・学童期の育ちのつながりと幼小連携—							
第10週 人とかかわりが難しい子どもへの支援—個々への丁寧なかかわりと集団を育てる保育の展開—							
第11週 子どもの育ちを支える保育者同士の人間関係〈対話・議論型授業〉							
第12週 保育者と保護者の人間関係—保護者との信頼関係を通して子どもの育ちを支える—							
第13週 地域との連携と子どもの人間関係の育ち							
第14週 人間関係を育む保育を展開するための指導計画—人とかかわる力を育てる活動の計画と実践、振り返り—							
第15週 領域「人間関係」をめぐる課題・まとめ							
【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 授業前にテキストの該当箇所を読み、授業後には課題や小テストに備えた復習のために毎回90分の自己学習が求められる。							
【授業計画コメント】 遠隔授業の際、Phollyを用いることがある。また、Phollyへの授業レポートの提出を求めることがある。							
【テキスト、参考書・参考資料等】							
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年			
テキスト	田代和美・榎本真実（編著）	『演習 保育内容「人間関係」—基礎的事項の理解と指導法—』	建帛社	2019			
テキスト	文部科学省	『幼稚園教育要領』	フレーベル館	2017			
テキスト	厚生労働省	『保育所保育指針』	フレーベル館	2017			
テキスト	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』	フレーベル館	2017			
参考書等	必要に応じて、適宜紹介する。						
【オフィスアワー】 水曜日昼休み、場所は山中研究室							
【その他】 小テストや提出された課題の内容は毎回確認し、必要な解説を行う。							

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名																		
H2233	子ども理解と相談援助	演習	2	2年次前期	選択	幼二種免必修 保育士資格必修	渡邊 恵梨佳 (実務経験のある教員)																		
<p>【実務経験】 心療内科や児童養護施設で心理士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして子どもの成長、発達の捉え方や保護者からの相談に対応するためのカウンセリング技術について具体的な例を踏まえて講義する。</p>																									
<p>【授業の概要】 子どもを理解するということは、保育や教育に携わる保育者の原点であるとともに、保育者として持ち続けなければならない子どもと向き合う姿勢でもある。そのため、この授業では子ども一人ひとりを理解するという視点を身につけ、発達課題に応じた関わりや、特別な配慮が必要な子どもとの関わり、保護者や就学先との情報共有などに対応できるよう実践を踏まえて説明する。また、子どもの理解を深めるために観察や記録に関する具体的な方法を用いる意義や目的を学び、保育者の基本的な態度や援助について説明する。</p>																									
<p>【キーワード】 子ども理解、教育相談、相談援助、カウンセリングマインド</p>																									
<p>【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①子どもの心身の発達や発達課題を把握する意義について理解し説明できる。DP(2) ②子どもを理解するために必要な知識や捉え方を理解した上で、保育者として個々に応じた対応や援助を身につける。DP(1) ③保護者や家庭の把握と情報共有の意義が説明でき、カウンセリングマインドを基本とした対応を身につける。DP(2)</p>																									
<p>【成績評価の方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>60%</td> <td>講義内容を理解した上で設問に対して的確に解答しているかを評価する。</td> </tr> <tr> <td>小レポート・課題</td> <td>20%</td> <td>講義内容に関連する提示したテーマに対して、適切な内容・記述になっているかについて評価する。</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20%</td> <td>授業への参加意欲や態度、グループワーク等への取り組みを総合的に評価する。</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	割合	評価基準	定期試験	60%	講義内容を理解した上で設問に対して的確に解答しているかを評価する。	小レポート・課題	20%	講義内容に関連する提示したテーマに対して、適切な内容・記述になっているかについて評価する。	小テスト			その他	20%	授業への参加意欲や態度、グループワーク等への取り組みを総合的に評価する。	合計	100%	
評価項目	割合	評価基準																							
定期試験	60%	講義内容を理解した上で設問に対して的確に解答しているかを評価する。																							
小レポート・課題	20%	講義内容に関連する提示したテーマに対して、適切な内容・記述になっているかについて評価する。																							
小テスト																									
その他	20%	授業への参加意欲や態度、グループワーク等への取り組みを総合的に評価する。																							
合計	100%																								
<p>【授業計画・内容・方法】</p> <p>第1週 オリエンテーション、保育・教育現場における今日の課題</p> <p>第2週 保育・教育現場における子ども理解①（子どもの観かた）</p> <p>第3週 保育・教育現場における子ども理解②（障害のある子ども・気になる子ども）</p> <p>第4週 保育・教育現場における子ども理解③（被虐待児・子どもの貧困など）</p> <p>第5週 保育・教育現場とカウンセリング①（基本的な理論の方法）</p> <p>第6週 保育・教育現場とカウンセリング②（カウンセリング技法とロールプレイ）</p> <p>第7週 子どもの変化と保育者の気づき（子どものSOSを読み取る）</p> <p>第8週 障害のある子どもや特別な配慮が必要な子どもとカウンセリングマインド</p> <p>第9週 保育者とカウンセリングマインド</p> <p>第10週 保育・教育現場におけるカウンセリングの実態①（集団活動が苦手な子ども）</p> <p>第11週 保育・教育現場におけるカウンセリングの実態②（子どものSOSへの対応）</p> <p>第12週 保育・教育現場におけるカウンセリングの実態③（保護者の様々な心情）</p> <p>第13週 相談計画の作成と園内の連携体制</p> <p>第14週 医療、福祉、心理等の専門機関との連携</p> <p>第15週 一人ひとりの心理的特質や保育・教育の課題に応じた支援</p>																									
<p>【事前・事後学習（内容・時間）】 ★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。週当たり90分程度の学修を行うこと。 自習：事前に授業計画に記載しているキーワードを調べておくこと。前回授業で提示したテキストや資料の範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業内容を各自でまとめておくこと。授業内で扱った内容に関連する情報を収集すること。 Phollyで配布された資料を読み見直しておくこと。</p>																									
<p>【授業計画コメント】 保育者を指すものとして、実習や就職先で出会う子どもたちを想定して意欲的に授業に参加すること。また、子どもを取り巻く環境や状況に関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。 Phollyで授業内レポートの提出を求めることがある。</p>																									
<p>【テキスト、参考書・参考資料等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>著者・編集者名</th> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>発行年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト</td> <td>小田豊、秋田喜代美 編</td> <td>『子どもの理解と保育・教育相談 [第2版]』</td> <td>㈱みらい</td> <td>2021年</td> </tr> <tr> <td>参考書等</td> <td colspan="4">適宜紹介する。</td> </tr> </tbody> </table>									著者・編集者名	書名	出版社	発行年	テキスト	小田豊、秋田喜代美 編	『子どもの理解と保育・教育相談 [第2版]』	㈱みらい	2021年	参考書等	適宜紹介する。						
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年																					
テキスト	小田豊、秋田喜代美 編	『子どもの理解と保育・教育相談 [第2版]』	㈱みらい	2021年																					
参考書等	適宜紹介する。																								
<p>【オフィスアワー】 水曜日昼休み、渡邊研究室。</p>																									
<p>【その他】 授業内で課したレポート・課題に関しては、評価後に授業内で全体に向けてフィードバックを行う。</p>																									

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名
H2242	保育内容指導法演習B	演習	1	2年次前期	必修	幼二種免必修 保育士資格選択	福田 豊子 森田 麗子（実務経験のある教員）
【実務経験】 保育者としての経験を活かし、子どもの姿をもとに、子どもの年齢、発達に応じた具体的な保育方法や子どもとの関わり方についての指導を行う。							
【授業の概要】 領域「健康」および「環境」について理解を深め、乳幼児期の発達に即した保育の構想、実践、評価と改善について学ぶ。保育内容指導法演習Bでは、グループで領域「健康」と「環境」の視点を中心に指導計画を「立案⇒実践⇒評価⇒改善」し、保育者としての知識や技術を高めていく。							
【キーワード】 保育指導法、領域「健康」、領域「環境」							
【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①領域「健康」「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を考えることができる。DP(2) ②想定した活動から子どもの姿と保育者の配慮について、領域「健康」「環境」の視点を通して理解する。DP(2) ③模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する力を身に付ける。DP(2)							
【成績評価の方法・基準】							
期末レポート	50%	授業内容を踏まえ、課題に対して問題意識を持って考えを述べているものを評価する。					
指導案	30%	授業内容を踏まえ、ねらい及び内容について考えることができ、領域の視点を意識した指導内容となっているかどうかで評価する。					
実践への取り組み	20%	授業における実践において、協働性を持って取り組んでいたかどうかを評価する。					
その他							
合計	100%						
【授業計画・内容・方法】							
第1週 領域「健康」「環境」のねらい及び内容の理解（福田・森田）							
第2週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育①「自然を感じる遊び」とは（森田）							
第3週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育②「自然を感じる遊び」の構想<グループワーク>（福田・森田）							
第4週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育③「自然を感じる遊び」の発表と振り返り<グループワーク>（福田・森田）							
第5週 乳幼児期の子どもの姿から領域「健康」の視点を読み取る（ICTを用いた調べ学習）（森田）							
第6週 乳幼児期の子どもの姿から領域「環境」の視点を読み取る（福田）							
第7週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育①「体を動かす遊び」とは（ICTを用いた調べ学習）（森田）							
第8週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育②「体を動かす遊び」の構想<グループワーク>（福田・森田）							
第9週 領域「健康」「環境」の視点をふまえた保育③「体を動かす遊び」の発表と振り返り<グループワーク>（福田・森田）							
第10週 3歳児クラスにおける保育実践から子どもを理解する<フィールドワーク>（福田・森田）							
第11週 4歳児クラスにおける保育実践から子どもを理解する<フィールドワーク>（福田・森田）							
第12週 5歳児クラスにおける保育実践から子どもを理解する<フィールドワーク>（福田・森田）							
第13週 実践した遊びの振り返りから保育者の配慮について考える<グループワーク>（福田・森田）							
第14週 「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校教科とのつながり（福田）							
第15週 領域「健康」「環境」にかかわる現代的課題と保育（福田・森田）							
【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 ・事前学習は、実践に必要な準備として乳幼児期の子どもの発達や遊びについて調べる。（約90分） ・事後学習は、授業で配布された資料などを使い、学びの振り返りを行い、Phollyにて振り返りシートを提出する。（約90分） ・Phollyで授業内レポートの提出を求めることがある。							
【授業計画コメント】 配布プリントは必ずファイルに綴じて、授業に毎回持参すること。 Phollyで授業内レポートの提出を求めることがある。							
【テキスト、参考書・参考資料等】							
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年			
テキスト	テキストなし						
参考書等	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	2018年			
参考書等	厚生労働省	『保育所保育指針解説』	フレーベル館	2018年			
参考書等	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』	フレーベル館	2018年			
【オフィスアワー】 福田…水曜日昼休み、福田研究室。 森田…水曜日昼休み、森田研究室。							
【その他】 「指導案」および「振り返りシート」のフィードバックは、授業内での全体へのコメントを通して行う。							

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名																				
S1301	キリスト教保育特論	講義	2	1年次前期	必修		森田 喜基 (実務経験のある教員)																				
<p>【実務経験】キリスト教団の運営に関わり、小学校、中学校、高等学校における宗教科教諭としてキリスト教教育に携わってきた経験から、現代の幼児教育、保育の現状において、子どもの生活を視野に入れて、キリスト教保育を行うことへの専門的、実践的な視座と意義を教授する。</p>																											
<p>【授業の概要】 キリスト教の行事や幼児礼拝について、聖書に基づいた理解をし、実際の保育の現場で生かせる学びをする。保育の現場においてどのようなキリスト教保育が展開されているのかについて学び、それに基づいて、実際に幼児礼拝やキリスト教視覚教材を創っていく作業にも取り組む。また幼稚園、保育園、社会福祉施設などでどのようなキリスト教保育が展開されているのかについても、フィールドワークを通して学びを深めていく。</p>																											
<p>【キーワード】 キリスト教保育、聖書の子ども観、日本の保育史</p>																											
<p>【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①聖書に書かれているイエスキリストの生涯を理解し、説明することが出来る。DP(1) ②幼児礼拝やキリスト教行事に関する理解を深め、実際の保育の現場で活かせる事が出来る。DP(2)</p>																											
<p>【成績評価の方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>60%</td> <td>授業で取り扱った内容に関する理解度で評価する。</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>平常点</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td>積極的に授業や課題、グループワークに取り組む等を総合的に評価する。</td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	割合	評価基準	定期試験			レポート	60%	授業で取り扱った内容に関する理解度で評価する。	小テスト			その他	平常点	40%	合計	100%	積極的に授業や課題、グループワークに取り組む等を総合的に評価する。		
評価項目	割合	評価基準																									
定期試験																											
レポート	60%	授業で取り扱った内容に関する理解度で評価する。																									
小テスト																											
その他	平常点	40%																									
合計	100%	積極的に授業や課題、グループワークに取り組む等を総合的に評価する。																									
<p>【授業計画・内容・方法】</p>																											
第1週 オリエンテーション 保育現場におけるキリスト教行事の展開 (1) イースター																											
第2週 キリスト教保育とは (1)「愛」をキーワードに<プレゼンテーション>																											
第3週 キリスト教保育とは (2)「希望」をキーワードに<プレゼンテーション>																											
第4週 キリスト教保育とは (3)「信じること」をキーワードに<プレゼンテーション>																											
第5週 キリスト教保育とは (4)「委ねる」をキーワードに<プレゼンテーション>																											
第6週 キリスト教保育と聖書 (1) 創世記																											
第7週 保育現場におけるキリスト教行事の展開 (2) ペンテコステ																											
第8週 キリスト教保育と聖書 (2) ヨナ書																											
第9週 キリスト教保育と聖書 (3) 新約聖書																											
第10週 保育現場におけるキリスト教行事の展開 (3) クリスマス																											
第11週 子どもと共に聖書物語を親しむために (1) お話の準備																											
第12週 子どもと共に聖書物語を親しむために (2) お話の展開																											
第13週 キリスト教保育視覚教材を創る (1) 図書館にて																											
第14週 キリスト教保育視覚教材を創る (2) 制作																											
第15週 キリスト教保育視覚教材を創る (3) 発表																											
<p>【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 予習について：事前に提示するテキストや、Phollyで配布される資料、映像等を事前に学習しておくこと。 復習について：授業内レポートをPhollyで提出すること。</p>																											
<p>【授業計画コメント】 特になし。</p>																											
<p>【テキスト、参考書・参考資料等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>著者・編集者名</th> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>発行年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト</td> <td>日本聖書協会</td> <td>『聖書 新共同訳』</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>テキスト</td> <td>キリスト教保育連盟</td> <td>『ともに育つ保育 入門』</td> <td>キリスト教保育連盟</td> <td>2018年</td> </tr> <tr> <td>参考書等</td> <td>日本基督教団出版局</td> <td>『讃美歌21』</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									著者・編集者名	書名	出版社	発行年	テキスト	日本聖書協会	『聖書 新共同訳』			テキスト	キリスト教保育連盟	『ともに育つ保育 入門』	キリスト教保育連盟	2018年	参考書等	日本基督教団出版局	『讃美歌21』		
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年																							
テキスト	日本聖書協会	『聖書 新共同訳』																									
テキスト	キリスト教保育連盟	『ともに育つ保育 入門』	キリスト教保育連盟	2018年																							
参考書等	日本基督教団出版局	『讃美歌21』																									
<p>【オフィスアワー】 授業の前後、教室にて質問を受け付けます。</p>																											
<p>【その他】 レポートのフィードバック方法 個別にコメントし、返却します。</p>																											

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名
S1303	保育心理学	講義	2	1年次前期	選択	幼一種免選択	渡邊 惠梨佳 (実務経験のある教員)
【実務経験】心理ケアの臨床現場経験を活かして、子どもの理解や（保護者理解も含めて）心理学的視点を用いた人との関り等について、専門的・実践的な知識や技術を教授する。							
【授業の概要】 保育者は「今」目の前の子どもをよく理解することとともに、一般的な子どもの発達や先の見通しをもって関わっていく必要があり、保育者に求められる役割は多様化している。そのため、この授業では保育・教育現場で実際に見られることを想定しながら、子どもの言動の裏側にある心理的理解や、心身の発達を支援する方法を具体的に学ぶ。また、学生同士で発表やグループワーク、ディスカッションを通して多様な考え方を共有し、議論する力も培う。							
【キーワード】 保育心理、コミュニケーション、共感、他者理解							
【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①子どもの発達に関する知識を基盤とし、保育・教育実践で必要となる支援方法を身につける。DP(2) ②人間の行動・心理特性について理解した上で、客観的な視点で子どもの言動を観察分析することができる。DP(2)							
【成績評価の方法・基準】							
定期試験							
期末レポート		60%	講義内容を理解した上で設問に対して的確に解答しているかを評価する。				
小レポート・課題		20%	講義内容に関連する提示したテーマに対して、適切な内容・記述になっているかについて評価する。				
その他	授業への参加意欲・態度・発表	20%	授業への参加意欲や態度、グループワーク等への取り組みを総合的に評価する。				
合計		100%					
【授業計画・内容・方法】							
第1週 様々な発達理論と発達観・保育における子ども観							
第2週 身体、認知、社会面での発達と初期環境（胎児期・乳児期）							
第3週 身体、認知、社会面での発達と保育①（乳児期）							
第4週 身体、認知、社会面での発達と保育②（幼児期）							
第5週 幼児期の身体機能と運動機能の変化①（粗大運動と微細運動）							
第6週 幼児期の身体機能と運動機能の変化②（環境構成・遊びの変化）							
第7週 乳幼児期の発達特徴と援助							
第8週 幼児期の認知発達と社会性の発達（感情と自己・クラス集団）							
第9週 言葉と心の理解の発達（コミュニケーション）							
第10週 学童期から青年期の発達特徴と援助							
第11週 自ら学ぶ心の育ち（学習理論・動機付け）							
第12週 個人差の把握（発達検査等）と発達障害							
第13週 成人期から老年期の発達特徴と援助							
第14週 生涯発達を振り返る①（乳幼児期～青年期）							
第15週 生涯発達を振り返る②発表							
【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。週当たり90分程度の学修を行うこと。 予習：事前に授業計画に記載しているキーワードを調べておくこと。前回授業で提示したテキストや資料の範囲を読んでおくこと。 復習：毎回の授業内容を各自でまとめておくこと。授業内で扱った内容に関連する情報を収集すること。 Phollyで配布された資料を読み見直しておくこと。							
【授業計画コメント】 保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもたちを想定して意欲的に授業に参加すること。子どもの言動の不思議や背後の心理的作用を考えることや、新聞記事やニュース等に関心をもち授業に臨むこと。 Phollyで授業内レポートの提出を求めることがある。							
【テキスト、参考書・参考資料等】							
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。						
参考書等	適宜紹介する。						
【オフィスアワー】 水曜日昼休み、渡邊研究室。							
【その他】 授業内で課したレポート・課題に関しては、評価後に授業内で全体に向けてフィードバックを行う。							

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名
S1409	子育て支援論	演習	2	1年次後期	選択		山中 早苗 (実務経験のある教員)
【実務経験】 保育士としての勤務経験を活かし、子育て支援において保育者がつまびき姿勢や果たす役割について指導を行う。また、他機関との連携の重要性についても解説する。							
【授業の概要】 今日の社会において子育て支援が必要となる背景を理解し、政府による施策および子育て支援活動の実際を学ぶ。保育者として子育て支援を行うにあたっての実践的な力を高めるため、地域における子育て支援活動に参加し、保護者や子ども達と実際にかかわる機会をもつ。そのなかで、地域のさまざまな機関と連携して子育てを行うことの意義を考察する。							
【キーワード】 子育て支援、保護者、地域、実践							
【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①子育て中の家族を取り巻く社会状況を理解し、どのような子育て施策が進められているかを述べる事ができる。DP(2)(3) ②子育て支援の実際について、どのような主体、場、活動内容があるのかを具体的に説明することができる。DP(2)(3) ③保育者が子育て支援を行うことの意義および役割を理解し、具体的な支援方法を考えることができる。DP(2)(4)							
【成績評価の方法・基準】							
定期試験							
期末レポート		50%	課題にそって調べ、授業内容をふまえて問題意識をもって考察を行っているかを評価する。				
発表および実践		30%	地域子育て支援現場における活動の計画、実践、実践後の振り返りを役割や課題にそって適切に行っているかを評価する。				
その他	授業への参加意欲・態度	20%	話し合いや実践準備、現場参入の際の参加状況を評価する。				
合計		100%					
【授業計画・内容・方法】							
第1週 子育て支援とはなにか							
第2週 女性の社会進出と子育て支援							
第3週 父親の育児参加							
第4週 子育て支援施策の動向							
第5週 保育所・幼稚園における子育て支援							
第6週 NPO等による子育て支援<フィールドワーク>							
第7週 子育て支援に必要な技術と姿勢							
第8週 子育て支援にふさわしい環境							
第9週 地域における子育て支援活動―実践計画の作成―<グループワーク>							
第10週 地域における子育て支援活動―実践に向けた準備―<グループワーク>							
第11週 地域における子育て支援活動―実践内容の発表―<グループワーク>							
第12週 地域の子育て支援現場への訪問<フィールドワーク>							
第13週 地域の子育て支援現場での実践<フィールドワーク>							
第14週 外国につながりをもつ家庭への子育て支援							
第15週 全体のまとめと振り返り							
【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 授業時に自らの考えを積極的に述べるための事前学習や実践に向けた準備および振り返りのために、毎回90分の自己学習が求められる。							
【授業計画コメント】 子育て支援現場への見学等の日程により、授業の順番が変更になる場合がある。 遠隔授業の際、Phollyを用いることがある。また、Phollyへの授業レポートの提出を求めることがある。							
【テキスト、参考書・参考資料等】							
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年			
テキスト	なし						
参考書等	授業時に適宜資料を配布する。						
【オフィスアワー】 水曜日昼休み、場所は山中研究室							
【その他】 日頃からニュース等の子育て情報に関心をもち、授業に臨むこと。 話し合いやグループ活動に積極的に参加することが求められる。 実践後の振り返りは、期限を守って行うこと。 提出された課題に対して、必要な解説を行う。							

科目コード	科目名	授業形態	単位数	開講時期	卒業要件	免許・資格要件	担当教員名																		
S2309	子ども家庭福祉論	講義	2	2年次後期	選択		杉山 宗尚 (実務経験のある教員)																		
<p>【実務経験】児童養護施設の現場職員としての経験を活かし、社会的養護を含む子ども家庭福祉分野に関連する内容について、学生の理解を深められるように説明し、教授する。特に、学生による発表・討議の場では、学生にとって理解が難しい内容や疑問・質問に対する解説をわかりやすく行う。</p>																									
<p>【授業の概要】 保育科での学びを基盤として、子ども家庭福祉に関する知識・理解を深める内容としている。その中でも、社会的養護を中心に取り上げ、現代社会における子どもや家庭を取り巻く環境をふまえ、家庭での生活が難しい子どもやその家庭への支援のあり方について、議論を深め、学びへとつなげられるようにしていく。また、テーマに基づく内容を調べ、発表し、それをもとに討議を行っていく授業を展開する。</p>																									
<p>【キーワード】 社会的養護実践、子ども虐待防止、ひとり親家庭支援</p>																									
<p>【授業の到達目標（目的・ねらい）】 ①子ども家庭福祉に関する諸施策の理解を深めることができる。DP(2) ②子どもとその家庭を取り巻く様々な現状と課題について説明することができる。DP(2) ③保育者としての福祉の視点を身に付け、それを活かした意見を述べて、討議に参加することができる。DP(3)</p>																									
<p>【成績評価の方法・基準】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> <th>評価内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> <td>レポート（提出状況と課題テーマに対する記述内容）を評価する。</td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>50%</td> <td>授業における発表内容（資料作成等を含む）を評価する。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10%</td> <td>討議への参加意欲・態度（積極的発言や質問、他者の発表の聴講状況）を評価する。</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								評価項目	割合	評価内容	定期試験			レポート	40%	レポート（提出状況と課題テーマに対する記述内容）を評価する。	発表	50%	授業における発表内容（資料作成等を含む）を評価する。	その他	10%	討議への参加意欲・態度（積極的発言や質問、他者の発表の聴講状況）を評価する。	合計	100%	
評価項目	割合	評価内容																							
定期試験																									
レポート	40%	レポート（提出状況と課題テーマに対する記述内容）を評価する。																							
発表	50%	授業における発表内容（資料作成等を含む）を評価する。																							
その他	10%	討議への参加意欲・態度（積極的発言や質問、他者の発表の聴講状況）を評価する。																							
合計	100%																								
<p>【授業計画・内容・方法】</p> <p>第1週 オリエンテーション、子ども家庭福祉の理解を深めるにあたって</p> <p>第2週 子どもの貧困について①生活困窮と生活保護</p> <p>第3週 子どもの貧困について②ひとり親家庭〈対話・議論型授業〉</p> <p>第4週 ひとり親家庭の現状</p> <p>第5週 ひとり親家庭への支援〈対話・議論型授業〉</p> <p>第6週 社会的養護に関する発表と討議①児童養護施設、乳児院〈調査学習〉〈プレゼンテーション〉〈対話・議論型授業〉</p> <p>第7週 社会的養護に関する発表と討議②児童自立支援施設、母子生活支援施設〈調査学習〉〈プレゼンテーション〉〈対話・議論型授業〉</p> <p>第8週 社会的養護に関する発表と討議③児童心理治療施設、障害児入所施設〈調査学習〉〈プレゼンテーション〉〈対話・議論型授業〉</p> <p>第9週 社会的養護に関する発表と討議④里親・ファミリーホーム、児童相談所〈調査学習〉〈プレゼンテーション〉〈対話・議論型授業〉</p> <p>第10週 子ども虐待①法制度と現状</p> <p>第11週 子ども虐待②支援と対応〈対話・議論型授業〉</p> <p>第12週 子ども虐待③事例検討</p> <p>第13週 子ども虐待④まとめ</p> <p>第14週 母子保健〈対話・議論型授業〉</p> <p>第15週 子ども家庭福祉の展望と全体の振り返り</p> <p>【事前・事後学習（内容・時間）】★1単位につき自習も含めて45時間の学修が必要です。 ・毎回の授業に関する内容について、インターネットや参考文献等で予習しておく。(30分程度) ・毎回の授業に関する内容をノート・配布資料等で復習しておくこと。(90分程度) ・発表に関する準備や討議において、必要な事項を文献等で調べておく。(120分程度)</p>																									
<p>【授業計画コメント】 ・発表に伴うテーマや資料作成については、授業中に提示する。最終レポートにおいても授業内で、課題テーマや期日について提示する。 ・授業計画については、受講生の関心のある内容により変更となる可能性がある。 ・Phollyでレポートの提出を求めることがある。</p>																									
<p>【テキスト、参考書・参考資料等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>著者・編集者名</th> <th>書名</th> <th>出版社</th> <th>発行年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>テキスト</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参考書等</td> <td colspan="4">保育科で使用した福祉系科目のテキスト</td> </tr> </tbody> </table>									著者・編集者名	書名	出版社	発行年	テキスト	なし				参考書等	保育科で使用した福祉系科目のテキスト						
	著者・編集者名	書名	出版社	発行年																					
テキスト	なし																								
参考書等	保育科で使用した福祉系科目のテキスト																								
<p>【オフィスアワー】 火曜日昼休み 杉山研究室</p>																									
<p>【その他】 受講生による発表をもとに討議を行ったり、授業内容をもとに討議を行ったりするため、積極的に参加してもらいたい。</p>																									